

# 令和5年度特別企画展「牧野富太郎と広島」について

久保晴盛・井上尚子・中原祥之・富澤まり

## はじめに

植物公園では、年に1度、自主企画の特別企画展を開催している。テーマは毎年変えており、今年度は植物分類学者の牧野富太郎博士に焦点を当てた特別企画展「牧野富太郎と広島」を2023年4月15日（土）～6月7日（水）[前期]及び6月17日（土）～9月18日（月・祝）[後期]の日程で開催した。企画の経緯と展示や関連イベントについて、以下に記す。

## テーマ選定について

牧野富太郎博士（以下牧野博士）は、日本の植物分類学の父とも呼ばれ、94年の生涯において、多数の新種を発見し、1,500種類以上の学名を付けた植物学者である。著書の牧野日本植物図鑑は植物学習者の必携本として親しまれているほか、牧野博士を顕彰する施設として、練馬区立牧野記念庭園・東京都立大学牧野標本館（東京都）、高知県立牧野植物園（高知県）があるなど、市民の認知度も高い。

令和5年度前期の日本放送協会（NHK）連続テレビ小説「らんまん」のモデルとして取り上げられることとなり、牧野博士や植物分類学に関する興味関心が高まり、植物園への来園需要も想起されることが期待されたため、本年度の特別企画展のテーマとして選定した。

## 展示内容の検討

当園では、平成13年に広島市植物公園開園25周年事業として、展示会「牧野富太郎と植物画展～時代を作った植物学者～」を開催したことがあり、展示会全体の組み立てや展示内容（特に広島との関わりに関する部分）の参考とした。また、牧野博士の生涯や業績に関する内容については、高知県立牧野植物園の全面的な協力の下、写真・動画などの資料提供に加え、展示内

容の確認を依頼した。

次に、目玉となる広島にゆかりのある展示物として、東京都立大学牧野標本館より、広島県内で牧野博士が採集された標本12点を借用し、期間限定（前期のみ）で展示した。加えて、県内での足跡をたどる資料として、北広島町教育委員会より芸北地域（北広島町・安芸太田町）を訪問時に記された掛け軸や宿帳の資料及び写真データの提供を受けた。その他、広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター宮島自然植物実験所及び高橋和子氏、藤原昌義氏より牧野博士の直筆の色紙や写真などを借り受けて展示した。

これらの実物資料のほか、牧野博士の業績や人物像がより伝わるように、ユーモアあふれる肖像写真や語録を吹き出し風にして紹介し、生涯で命名した膨大な植物の全リストを壁一面に張り出すなど、連続テレビ小説で植物に初めて興味を持った層にも、わかりやすく視覚的に伝わる展示になるように工夫した。

## 展示概要・レイアウト

まず、展示の導入（イントロ）として、歓迎の意図が伝わるよう、会場の入口正面に全長2.5mの記念撮影コーナー（写真パネル）を配置し、若かりし頃の牧野博士と一緒に記念撮影をできるようにした（写真1）。



写真1 牧野博士との記念撮影コーナー

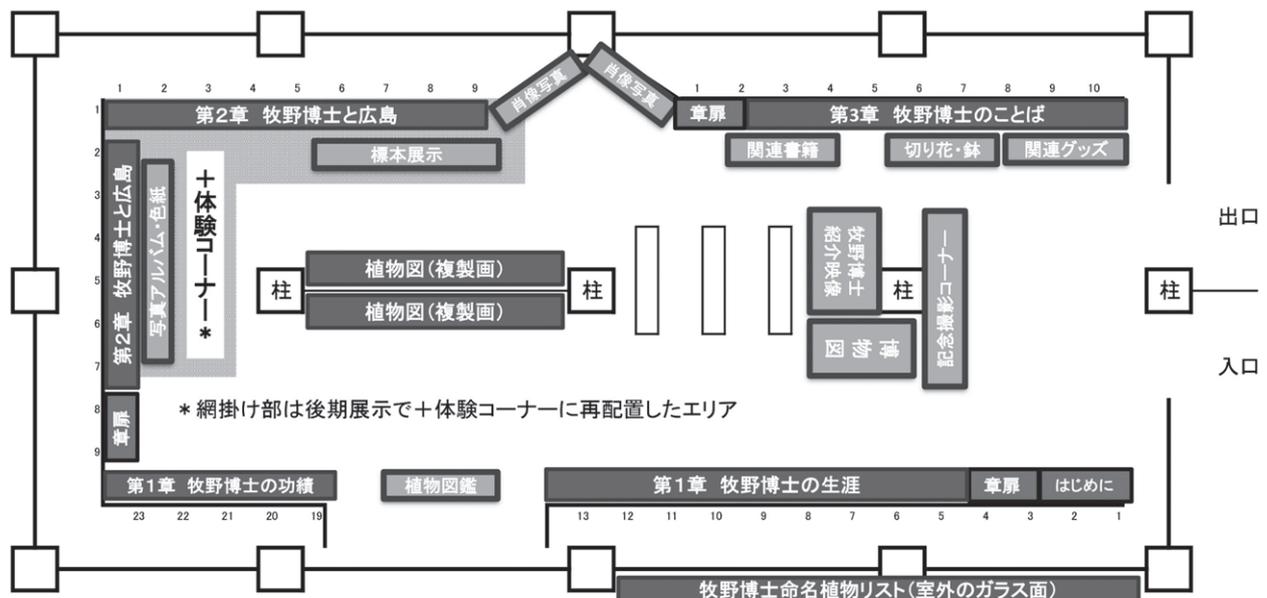


図1 会場レイアウト

### 展示概要・レイアウト

今回の展示では、大きく3つの章立てを行い、牧野博士の生涯と功績、広島との関わりや人柄・エピソードについて幅広く順序だて理解できるように配慮した(図1)。

また、後期の展示会では、夏休みを意識してレイアウトを再構成し、展示室奥側に植物ぬり絵や積み木などの木のおもちゃで遊べる「+体験コーナー」を併設した。

#### 第1章 牧野博士の生涯・牧野博士の功績

牧野博士の生涯を時系列に沿ってパネルで解説し、東京帝国大学への出入り・結婚・経済的な困窮など人生の分岐点となったエピソードを深掘りした(写真2)。この展示パネルの一部には、公益社団法人日本植物園協会の連携企画として、全国の植物園で共通展示を行うために提供を受けたパネル原稿もあわせて活用した。

牧野博士の功績については、多くのものがあるが、今回は「植物分類学への貢献」、「牧野日本植物図鑑発行・学術雑誌の創刊」、「牧野式植物図」、「植物の教育普及」の4つの観点から取り上げ、特に植物図については、ムジナモやヤッコソウなど、10点の精密な植物図(複製画)を植物解説付きで展示し、大判で印刷することで博士の繊細な筆使いがより分かるように工夫した。



写真2 牧野博士の生涯を解説するパネル展示

#### 第2章 牧野博士と広島

牧野博士は昭和初期に広島文理科大学(現広島大学)に臨時講師として招かれ、県内で観察会を複数回実施している。当時の記録は様々な形で残されているが、中でも八幡湿原のカキツバタの群生に感銘を受けた話は有名である。

今回の展示では、目玉となる牧野博士が広島県内で採取した標本展示(写真3)や八幡湿原のエピソードに加え、2022年に整理された峡北館の芳名録(後藤家文書、広島県立文書館所蔵)に記した三段峡訪問時のサインや「瀬戸内海島嶼植物研究大会(昭和8年)」を記録した写真アルバムなど、一般に知られていない来広時の資料をできるだけ発掘・紹介することに努めた。



写真3 牧野博士が採集した広島の本木展示  
(東京都立大学牧野標本館所蔵)

### 第3章 牧野博士のことば

牧野博士は図鑑や研究論文以外にも、随筆など多くの一般向けの著作を残しており、その中には、ユーモアあふれる人間性が想像できる様々な名言や格言が含まれている。今回は、来場者に自由に感じてもらい、背景も含めて余白を想像してもらえるように、厳選したことばを注釈なしで展示した。また、サイハイランやキバナノセッコクなど牧野博士にゆかりのある花も随時展示した。



写真4 牧野博士の言葉とゆかりの花の展示

#### + 体験コーナー (後期)

後期の展示会では、第1章と第2章の展示スペース(展示室奥側)を再構成し、子ども向けの体験コーナーを併設した(図1)。これは昨年度の「夏休みの子ども向けオープンスペース」に続く取り組みであり、今年は牧野博士ゆかり

の植物の塗り絵や草花あそびなどを展開した。また、広島大学大学院人間社会科学研究科木材加工研究室の協力の下、木育コーナーを拡張し、木の玩具で自由に遊べるようにした(写真5)。



写真5 木育コーナー つみきであそぼう

### 関連イベント

関連イベントとして、以下の4つの催しを企画した。企画にあたっては、学術的なものだけでなく体験・参加型のイベントも含めることとし、幅広い内容のものを実施した。

#### 1. 特別企画展講演会

①「牧野富太郎博士の頭のなか - 植物の特徴をまとめるとはどのようなことか」

5月5日(金・祝)13時半から、展示資料館2階講堂において、広島大学名誉教授の関太郎氏を講師に講演会を開催した(写真6)。専門家の立場から、牧野博士が生涯を捧げた植物分類学についてわかりやすく解説いただいた。参加者は150名となり、立見が出る盛況ぶりであった。

②「牧野富太郎博士94年の生涯」

7月2日(日)13時半から、展示資料館2階講堂において、高知県立牧野植物園の藤井聖子氏を講師に講演会を開催した。参加者は130名。牧野博士の生涯のテーマで、一次資料を元にわかりやすく解説いただき、「らんまん」の撮影秘話など豊富な話題提供で、会場が盛り上がった。

## (2) 牧野博士足跡ツアー（野外観察会）

牧野博士の足跡をたどるツアーを5月28日に八幡湿原（北広島町、講師は芸北トレッキングの会員・本園職員）、6月4日に厳島（廿日市市、講師は広島大学坪田博美准教授）で開催した。参加者はそれぞれ28名、48名。どちらも定員を上回る申込みがあり、抽選を行った。八幡湿原ではカキツバタなどの湿地植物を、厳島ではトサムラサキなどの暖地性植物を観察しながら足跡をたどり、約90年前に牧野博士が見た風景を参加者と共有した（写真7）。



写真6 講演会の様子（講師の関名誉教授）



写真7 八幡湿原の牧野富太郎博士句碑の見学

## (3) ギャラリートーク マキノを語ろう

4月22日（土）10時から、会場の展示室にて、担当職員が展示内容を解説するギャラリートークを実施した。参加者は18名。牧野博士が少年期に小学校で見た博物図など、「らんまん」のストーリーにつながるような博士の生涯や業績の紹介を軸に、対話型の解説・説明を行った。

## (4) おさんぽマップの配布・クイズラリー

園内で栽培している牧野博士ゆかりの植物を紹介するための案内資料「おさんぽマップ マキノをさがせ！」を植物の見頃にあわせて計8回発行した（図2）。資料作成に当たっては、前年度よりエリア毎に展示可能な牧野博士ゆかりの植物を検討・調整し、必要に応じて植栽を行った。また、サマーフェア期間〔令和5年7月15日～8月31日の43日間〕に実施したクイズラリーにおいても、特別企画展と連動した問題を作成し、のべ3,571名の参加者（対象は小学生以下）があった（図3）。

## まとめ

開催期間（前期45日間、後期82日間）の総入園者数はそれぞれ28,586名、30,405名であった。一日あたりの入園者数は平均464名となった（前期635名、後期370名）。来園者の関心はとても高く、展示室内にパネルをみるための行列ができるなど、これまでの展示会では見られなかった賑わいが見られた。講演会などの関連イベントも軒並み盛況であったことから、新しく植物に興味を持った潜在的な客層へアプローチし、植物そのものに興味・関心を持ってもらうという目的は達成することができたと考えている。今後とも、展示会を通じて植物の魅力を発信する努力を継続していきたい。

## 謝辞

本展示会には、以下の方々にご協力いただきました。ここに深く感謝の意を表します。

協力者（50音順） 金田道紀 様、小松加枝 様、関太郎 様、高橋和子 様、坪田博美 様、濱谷美佐子様、久藤広志 様、藤井聖子 様、藤原昌義 様、村上哲明 様

## 協力機関・団体（敬称略、50音順）

北広島町教育委員会、芸北 高原の自然館、芸北トレッキングの会、公益財団法人高知県牧野記念財団（高知県立牧野植物園）、公益社団法人日本植物園協会、東京都立大学牧野標本館、広島県立文書館、広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター宮島自然植物実験所、広島大学大学院人間社会科学科木材加工研究室

展示物一覧（パネル資料、生植物を除く）

- ・牧野博士が広島県内で採集した標本 12点（東京都立大学牧野標本館所蔵）
  - アカモノ [昭和8年 北広島町八幡]
  - イワシデ [昭和7年 庄原市東城町帝釈]
  - ウラジロイワガサ [大正12年 広島県]
  - ウメモドキ [昭和7年 広島市]
  - ウンゼンツツジ [昭和9年 廿日市市大野]
  - カカツガユ [昭和8年 瀬戸内海諸島]
  - カキツバタ [昭和6年 広島県]
  - カンコノキ [昭和3年 廿日市市大野]
  - タミズキ [昭和6年 広島県]
  - ホルトノキ [昭和8年 瀬戸内海諸島]
  - マルバノキ [昭和8年 廿日市市大野]
  - ヤマモガシ [昭和9年 広島市]

- ・吉村 定久氏のアルバム [瀬戸内海島嶼植物研究大会ほか]（高橋和子氏所蔵）
- ・堀川芳雄教授に贈った牧野博士の色紙
- ・土井美夫氏への手紙、胴乱（広島大学・宮島自然植物実験所所蔵）

- ・牧野博士と関 太郎氏の間でやり取りした手紙 [差出年：昭和8年]（関太郎氏所蔵）
- ・色紙 [草を褥とし木の根を枕花と恋して五十年]（藤原昌義氏所蔵）

- ・牧野日本植物図鑑 [初版]
- ・博物図第2図 [複製]（個人所蔵）
- ・牧野日本植物図鑑 [改訂版]（久藤広志氏所蔵）

- ・日本植物図鑑 大正14年初版（濱谷美佐子氏所蔵）
- ・映像資料 ミニミニ展示「はじめまして、牧野富太郎です。」（高知県立牧野植物園所蔵）
- ・植物標本 コケセンボンギク、野冊 [昭和26年 廿日市市宮島]（本園所蔵）

+ 体験コーナー

- ・つみき一式 [木材とプラスチック]
- ・広島となじみのある木（6種）の紹介（広島大学・木材加工研究室所蔵）
- ・草花あそびの紹介 [木琴・オナモミダーツ・どんぐりゲーム・植物塗り絵など]
- ・植物標本 コルクガシほか8点（本園所蔵）

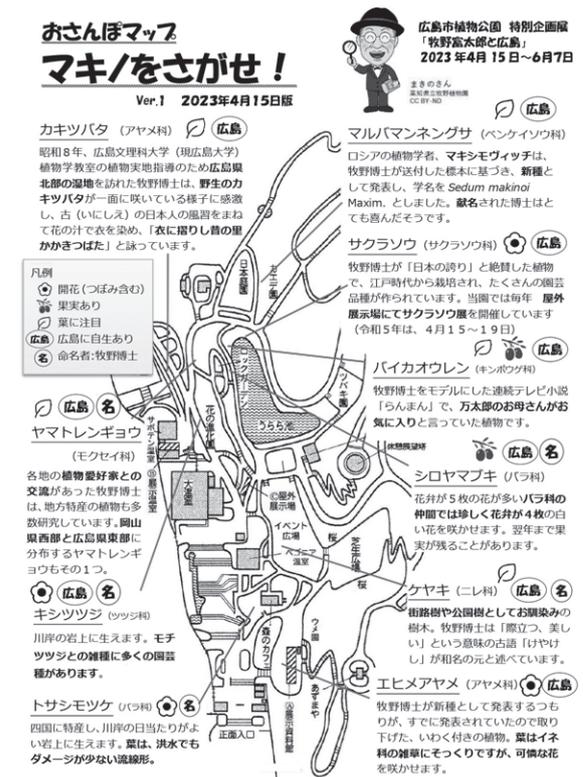


図2 おさんぽマップ マキノをさがせ！ Ver.1 2023年4月15日版

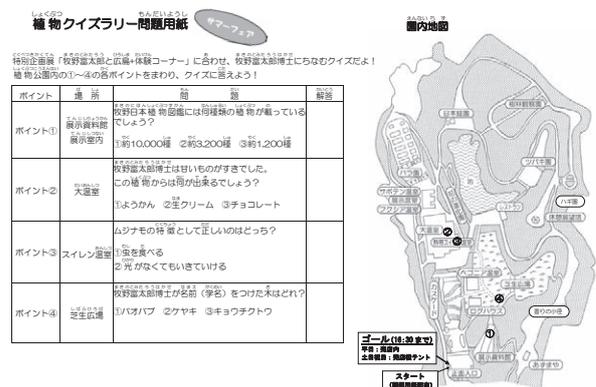


図3 サマーフェア クイズラリーの問題